

会員の広場



UEJ丸の出帆 (社員総会の感想)

全日本大学開放推進機構 副理事長 渡邊 一雄

平成24年度UEJ第1回社員・会員総会が、去る5月26日、大東文化大学信濃町校舎にて開催された。

関西から上杉孝實理事(京都大学名誉教授)や、理事として初めてご出席の河村能夫理事(龍谷大学名誉教授)が出席され、非常に建設的な意見も出て、議案を一つひとつ検討し無事終了した。議案は、一号から七号までであり、①基本方針、②平成24年度事業計画、③フォーラム、セミナーの計画、④役員の役割について、⑤規則(会計基準)、⑦その他(PRやホームページの公表について)などであった。

討議の結果については議事録を見ていただくことにして、私として一番印象に残ったのは香川理事長の基本方針であった。特に旧体制は本年3月31日に解散し、NPO法人として新しく生まれたUEJの第1回の総会であるだけに、本法人創立者の香川理事長の基本方針はきわめて重要であり、会員一人ひとりが自らのものとして確認しなければならない内容であった。

方針は次の4項目である。

①会員のために働く。

従来のUEJは、会員・非会員の区別が付かぬ制度になっていたが、これからは当会員であることのメリットを十分に受けるようにしたい。会員及び会員の所属する大学や団体へ、UEJの役員が要請に応じて積極的に支援すること、及びUEJジャーナルの〈会員の広場〉等を会員限定の閲覧にするためにパスワードを変更するなど、会員を大切にしていくという方針が示された。

②研究開発を促進する。

会員を中心に研究会を設置する。研究助成金を獲得して会員の研究活動を活発にしていきたい。また、研究担当理事が中心になって、会員の研究や実践の成果を「大学開放」の単行本にして刊行したい。会員の研究や優れた実践の成果は積極的にホームページに載せて、社会に広めたい。このように云われたが、実現できるように協力したい。

③連携の促進

地域団体、経済団体との連携を積極的に進めていく。この件については、理事長ご自身の開拓による生涯学習団体として発足する(社)耕雲塾の活動への講師派遣や、東京理科大学との共同事業について示唆された。これらの団体との連携の在り方については、今後、理事、会員ともども正確な理解と確認の上で進めていかねばならぬと思うが、いずれにせよ丁寧なふれあいから何かが生まれる可能性が感ぜられた。

④専門家の養成

大学開放センター所属の専門職員を養成していく。養成プログラムの開発と資格制度の設計を行う。プログラムを作り上げ、関係機関の認知と支援を得られるように努力していく必要がある。実現は簡単ではないであろうが、UEJにとっての重要なテーマとして、取り組んで行くべきことと思う。

以上、4項目は新生UEJの方向性を示す内容のある基本方針である。理事の中からこの4項目は、一つひとつ深い意味を持っているが、優先順位を決めて進めるべきであるとの意見も出されたが、結論として参加者全員の賛同を得て、終会した。

問題山積みのUEJ丸であるが、問題を一つひとつ解きほぐして、UEJのミッション実現に参画出来ることを、会員としての喜びとしていきたいと思う。

渡邊 一雄 (わなたべ・かずお)

1936年、岐阜県生まれ。一橋大学法学部卒。三菱電機(株)入社、三菱電機貿易香港(株)社長、マサチューセッツ工科大学スローンスクール修了。三菱セミコンダクターアメリカ社長、上智大学非常勤講師、川崎医療大学社会福祉学部教授、岩手県立大学教授・国際社会人教育センター長、日本社会事業大学大学院特別客員教授、世田谷区特別養護老人ホーム「等々力の家」常務理事・施設長を経て、現在日本社会事業大学理事、社会福祉法人奉優会理事、元日本福祉囲碁協会会長、日本フィランソロピー研究所長、特定非営利活動法人全日本大学開放推進機構副理事長。話し方の研究から落語の世界に興味をもち、弟子入りして「三遊亭大王」の名前をいただいて、落語家として高座に上がっている。